

平成25年度奈良県がん予防対策推進委員会（第2回受診率向上部会）

議 事 要 旨

日時：平成26年2月28日（金） 午後2時～4時

場所：奈良県医師会館 2階会議室

出席者：

（委員）大石元、堀川巳清、松山神恵、今田順子、吉岡敏子、浦嶋偉晃、

概要：

（1）市町村がん検診受診率（平成24年度確定値）について

（2）平成25年度のがん予防対策の取組結果について

（3）平成26年度がん予防対策事業について

で各々の項目について事務局から報告がされた後、意見交換が行われた。

（1）がん検診受診率（24年度確定値）について

胃がん検診 6.1%（H23年度）→ 6.4%（H24年度）

肺がん検診 7.1%（H24年度）→ 6.4%（H23年度）

大腸がん検診 18.5%（H24年度）→ 17.4%（H23年度）

子宮がん検診 20.0%（H24年度）→ 19.9%（H23年度）

乳がん検診 20.0%（H24年度）→ 19.9%（H23年度）

- ・5がんすべてが、前年度より受診率が上がっている。特に大腸がんは18.5%で、昨年の全国平均より高くなっている。

○市町村別のがん検診の実施状況について（がん検診事業評価のためのプロセス指標）

平成24年度市町村がん検診の要精検率、精検受診率、がんの発見率、陽性反応適中度、未把握率等の報告

- ・胃、肺、子宮、乳がん検診のプロセス指標値は、国の許容値内ではあるが、地域差がある。
- ・精検受診率が、かなり低い地域がある。（50%以下の市町村もある。）
- ・大腸がん検診は、県全体の要精検率7.4%で、国の許容値（7.0%以下）を超えている。精検受診率は67.3%で、国の許容値（70%以上）以下である。（大腸がん検診については、精検受診率が低く、未把握率が高いという課題がある。）

- 胃がんと肺がんのこの受診率は、かなり厳しい。大腸がんの受診率がアップしているのは、いろいろな取組の結果だと思う。大きな進歩だと思う。
- 胃がん、肺がんについては、奈良市など人口の大きなところの受診率が低いのは、かなり問題である。しかし橿原市の人口は多いが受診率が高い。がん検診の取組の違い、個別検診が関与することが多いのではないか。
- 奈良市の肺がん、胃がんの受診率が低いが、住民の検診のモチベーションが低いかといったらそう

ではない。大腸、子宮、乳がん検診の受診率は高い。受けたいと思っているが受ける施設がないという現状。個別で検診をすると上がると思う。橿原市は個別でしている。これが数字に反映している実態。

- 胃がん検診は胃透視、肺がんは胸部レントゲンが当分続くと言われている。開業の先生にとって、装置が時代と逆行していて、簡単に個別検診にいかない。
- 奈良市が積極的に受診率向上のために行動をおこした場合、現状ではすべてを受け入れられるかという問題がでてくる。
- 受診者台帳を整備することが重要であると以前から言われている。
しかし受診対象者のうち市町村がん検診の対象者、職域で受ける対象者、人間ドックの対象者など全部把握できる台帳はない。未受診者が個別に受けているかどうかわからない。
- 以前、奈良市に台帳がないということで、奈良市に働きかけたことがある。現在は、どのような状況か？
→奈良市はH25年度から導入された。

(2) H25年度のがん予防対策の取組結果について

- 今回の取組が受診率に反映されるのは？
→25年度の受診率に反映されるので、26年度に報告ができる。
- がん予防推進員養成講座は、王寺町以外にも考えているのか？
→次年度は、県内4保健所で広めていく予定。
- 職域の調査を初めて実施したと思うが、調査に協力した企業は、全てがん検診を積極的に実施しているのか？がん検診を実施していない企業も協力しているのか？
→24社に協力いただいた。22社ががん検診を企業で実施していて、2社が実施していなかった。
- 実施していない企業は問題。労働安全衛生法で決められているのか？
→がん検診は決められていない。
- 個別受診勧奨・再勧奨モデル事業について、データは直近であるが、かなり期待できるデータであることが示された。次年度に注目したい。
- 市町村の個別介入は、具体的にはどんなことをされたか？
→モデル4市町に出向いて、がん検診の現状や、どのような取組を今までされたか、どのような問題点があるかを把握し、今後の取組について、一緒に検討した。
- 個別受診勧奨・再勧奨モデル事業を実施して、個別に受診券を送るだけで20%ぐらいの受診率を確保できるのかと感じている。24年度の確定値がでたが、橿原市など受診率の高い村以外の市や町が、全対象者に個人通知をしているのか教えてほしい。
→奈良市、橿原市、生駒市は対象者に個別に受診券を送付している。宇陀市、斑鳩町、五條市について確認する。
- 職域の意識調査は、職場でがん検診を実施しているにもかかわらず、40~50%しか受診されていない。未受診理由が「時間がない」「めんどう」「検診料金が高い」だった。どのような方法をとれば職域での受診勧奨につながるのか難しいと感じた。
- がん予防推進員養成講座を修了された方は、どのような活動をされるのか？

→自分たちの活動の中で実施できること、家族や知人への受診勧奨、もともとの活動の中で、がんを啓発する機会を設ける。できる範囲で身近なところから広げていく。

●葛城市のコール・リコールで20%上がったのは、とてもいいモデル事業だと思う。26年度はどのようにされるのか？

●今年度は県から10/10補助してもらったので実現できた。26年度は市の単独事業になるので予算の獲得が非常に困難になる。25年度は20~39歳という幅を広げて実施したが、26年度は、30代にターゲットをあて実施しようと考えていたが、国の補正予算の働く世代の女性のがん検診推進事業で実施する予定。

リコールは非常に効果があるのが実証済みなので、実施したいが、役務費、通信運搬費がかなり必要になる。

(3) 平成26年度のがん予防対策事業について

●4モデル市町の26年度の取組の成果に期待したい。

●モデルの個別受診・再勧奨は、今年度の生駒市・葛城市が実施した内容と同じものか？

→具体的な方法はまだ決まっていない。これから打ち合わせをする。

●経験された葛城市、生駒市の意見も導入して、実施していけばいいものができると思う。

●がん予防推進養成講座のがん予防について、生活習慣と書いているが、生活習慣はたばこや食習慣が大事だと思う。例えば食塩を控えるなど重要である。生活習慣の中に食習慣という言葉がどこかにはいっていたらとわかりやすいと思う。

●「がん検診を受けよう！」奈良県民会議は、去年は県民会議の会員だけで実施した。一昨年は、一般の人も入れたが。

→26年度は、具体的にはこれからの検討となっている。25年度は県民会議の総会という位置づけにしたので、県民会議のメンバー116団体に限定。26年度に向けてどちらの方がいいのか含めて検討したいと思う。がん検診を広めていくための講演会を考えているので、一般の県民に入ってもらっていただく方がいいのか、内容を含めて検討したい。

●できるだけ一般の方にも入っていただいて、講演をきいていただく方がいいと思う。